池田町 ダイスキ！

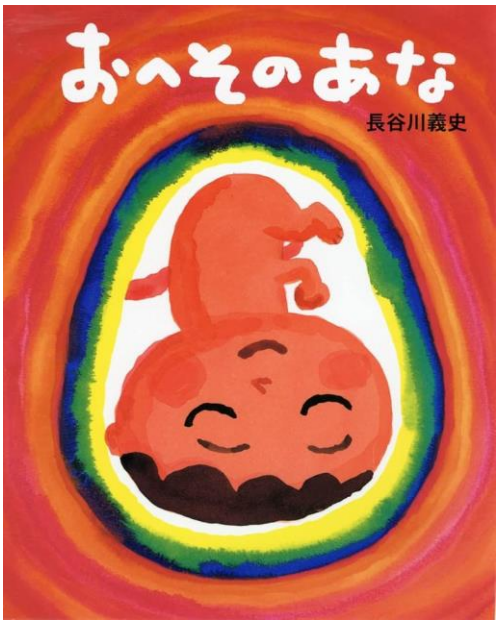
CS だより

令和７年７月25日
池田小学校学校運営協議会
学び＆育ちをサポート No.2

夏休み直前！ 学校運営協議会おすすめ本特集！！

学校運営協議会では、「家族が本を開くこと」につながるお手伝いとして、CS 委員や部会員からおすすめの本をいただきました。

いよいよ夏休みに入ります。夏休みはまとまった時間があり、じっくりと読書するにはいい機会です。ぜひ、子どもたちのお気に入りの一冊を探してみてはいかがでしょうか。



【おへそのあな】

「いいからいいから」シリーズなどでおなじみ長谷川義史さん作の絵本。

お母さんのおなかのなかにいる赤ちゃんがおへその穴から見ているのは、おにいちゃん、おねえちゃん、お父さん。見える景色はさかさま。声もきこえて安心。家族皆が「その日」を待っています。

（川口）

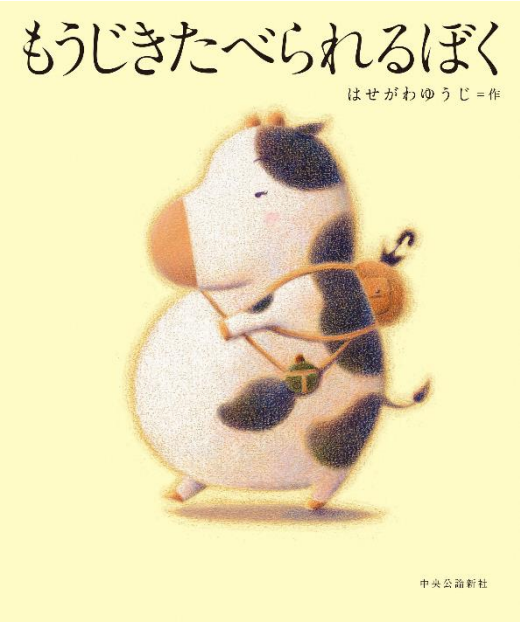
【笑う森】

神森で行方不明になった５才児と迷いこんだ４人の男女。５才の ASD 児は１週間後無事に保護されるが「クマさんが助けてくれた」と語るのみで全容を把握できない。いったい森で何があったのか？希望と再生にあふれた物語です。

この５才男児真人君がかわいい！

（川口）

裏面へ続く……



【もうじきたべられるぼく】

うしとしての生き方を受け入れた「ぼく」が、食べられる前に自分のおかあさんに会いに行くのですが、はたしてその結末は？

いのちの大切さや親子のきずなが絵本全体から伝わってくる感動の一冊です！

（吉田）

【いやしのもり】

訪れた人が夢を見つけ、その夢がかなうという不思議な森。いつもひとりぼっちの女の子はある日、迷い込んだ森でどんな夢を見つけ、かなえたのか？絵を見ているだけでも楽しく、子どもから大人まで思わず笑顔になる心温まるお話です。

（宮越）

【クジラがしんだら】

クジラが死んだら、その身体は深い海の底に沈み、深海に暮らす生き物たちの、ものすごい量の「たべもの」となり、彼らの命を繋ぎます。「命」というと「生まれて死ぬまで」という単位でとらえがちですが、この本に出会い「死んだあと」「次に何を繋ぐか」を考える今日この頃です。

（福家）